

先週の土曜日八日、立教小学校同窓会の総会が目白校舎で行われました。

本校の同窓会は今年で設立七十周年を迎えます。二クラス八十二名で始まった小さな小学校も今や、同窓生八千人を超える学校へと成長してまいりました。

同窓会の総会当日のスケジュールは、先ずは同窓会設立七十周年感謝礼拝。その後が総会で、一部と二部に分かれ、一部がいわゆる総会。二部が新同窓生（七十一回生Ⅱ中学一年生）代表二名によるご挨拶、新社会人（六十一回生）代表二名によるご挨拶と諸連絡。その後、参加者お楽しみのみ、豪華景品付き抽選会へと続きます。私も感謝礼拝で奨励、総会でご挨拶をさせていただきました。

当然のことながら、本校は男子校ですから、同窓生は男性ばかり。中にはパートナーやお嬢さん連れの方もあり、100%男性という訳ではありませんが、男子校ゆえに、いや、男子校だからこそ「ジェンダーニュートラル」の考え方をおろそかにすることはできません。

世界的な潮流として、「ジェンダーニュートラル」の考え方が広まっているようです。

「Ladies and gentlemen」のアナウンスの停止や、先ごろ米国ボーイスカウト連盟が声明で、「全ての人々が歓迎されていると感じられる」ように、「スカウティング・アメリカ」に改名すると発表し、創立百十五周年に当たる二〇二五年二月に正式に名称が変更さ

れる予定だとか。「Gentlemen」が使えないのなら「紳士」も使用不可なのでしょうか？

そもそも「紳士」の「紳」の字は、「高官が使う礼装用の太い帯」の意味で、そこから「貴人」を表す言葉になったようです。それが転じて、明治の頃、英語の「Gentlemen」の訳語として地位、教養の備わった立派な男性を表す言葉になったのだとか。「ジェンダーニュートラル」の考え方で行くと、「紳士」は現在使いにくい言葉のようですが、「紳士的」というのなら性別を限定するものではないので、使用可のようです。ですから、「淑女」と言わず、「紳士的な女性」と表現するのは許されるようです。何やら迷路に迷い込んだような気分で、いやはや、ややこしい。

「ジェンダーニュートラル」的に言うと、本校の同窓生は「紳士的」な方がなんと多いことか。本校の近くにお住まいで、町会長さんをしてくださっている六回生のある方は、子どもたちの登下校の様子を心配してくださるだけではなく、目白校舎にいるときにしかできそうにない伝統芸能、長崎神社の「獅子舞」を体験してみてもどうかと、資料を持って来校してくださいました。

二十六回生のある方は、自分の貴重な時間と資料を使い、新校舎の建設の様子を定点観測のために、大学の許可をもらい、ビデオカメラを大学の校舎に設置し、小学校の新校舎の建設状況を記録する準備を進めてくださっ

ています。

三十三回生のある方は、ご自分のビルを開放してくださり、小学校の種々の荷物を保管してくださっています。皆様、あたかも当然のこのように…。

目白校舎での生活が始まり、今までどれだけ同窓生の方々にお支えいただき、お世話になつてきたのか、より一層はつきりと見えてきたような気がします。感謝、感謝！

「紳士的」な方というのは、自分の立ち位置を俯瞰（ふかん）でき、飄々（ひょうひょう）と自分が守るべき人やもののために進んで働ける方を指すのだと、同窓生の方々のお姿を拝見し、つくづく実感しました。「紳士的」な同窓生をこれからも増やし続けられるような学校でありたいと強く願っています。

十一月九日には同窓会設立七十周年の記念イベントも計画されているとのこと。聞くところによると、オークションとして、理科室の木の椅子や教室で使用していた古い木の椅子、鞆箱のクラス札等が出品されるそうです。手に入れた物を喜々として持ち帰った「紳士的」な方々が、「なんでこんなガラクタを買ってきたの！」と家族から言われ、シユンと

